

中東欧通貨週報

2024年7月4日

みずほ銀行欧州資金部
シニア為替ストラテジスト
中島將行
masayuki.nakajima@mizuhoemea.com

Private and confidential

来週は筆者都合により休刊します。

MIZUHO

中東欧通貨 過去1週間の動向と展望

< 過去1週間の動向と展望・・・ハンガリーが輪番制のEU理事会議長国に。オルバン首相の動きが活発化。 >

過去1週間の中東欧通貨はポーランドズロチとハンガリーフォリントが対ユーロで底堅く推移した一方、チェココルナの下落が目立った。**チェコ国立銀行**は6月27日の金融政策決定会合で4会合連続となる50bpの利下げを決定した。6月下旬以降のコロナの軟調な展開や、インフレ・賃金の上方スパイラルのリスクを考慮すれば、25bpへの利下げ幅縮小が妥当という見方も根強かった。

ハンガリーが7月から輪番制のEU理事会議長国となったことを受けて、同国のオルバン首相が動きを活発化させている。7月2日には**オルバン首相がウクライナに電撃訪問**し、ゼレンスキー大統領と会談している。オルバン氏はEUのウクライナ支援を遅らせ、ロシアに対する制裁にも反対姿勢を示している。さらには、ウクライナのEU加盟にも反対し、ウクライナ国内にいるハンガリー系住民の権利を巡ってウクライナの歴代政権と長年の緊張関係にある。オルバン氏はゼレンスキー氏に対し、ロシアと停戦して和平交渉を開始するよう提案したと報じられているが、両者の対談は平行線をたどった模様だ。また、オルバン氏は7月1日にFT紙の中で自身の論説を掲載している。EUの産業政策、とりわけグリーン・トランジションに対する辛辣な批判と共に、自身の産業政策に対する自信を示している。もっとも、ハンガリーは中国のEV投資を積極的に受け入れる形で直接投資の流入が拡大しているが、EU域内の自動車産業をリスクに晒すという懸念は根強い。なお、ハンガリーはEU理事会議長国就任にあたり「Make Europe Great Again」とトランプ元大統領の焼き直しのスローガンを掲げている。

さらに、オルバン首相が率いるハンガリーの与党フィデスは、チェコの最大野党ANO、オーストリアの極右政党「自由党」（FPO）と同盟「**欧州の愛国者**」を結成したと6月30日に発表している。各国の世論調査においてANO、FPOはそれぞれ今年9月に控える総選挙で政権を獲得する可能性が高い有力政党である。欧州議会の規則上、新会派の結成にはあと4か国で欧州議会で議席を持つ政党の参加が必要となるものの、3党に加えてスロバキアの政権与党スメル、ポーランドの最大野党「法と正義」（PiS）、ドイツの極右政党「ドイツのための選択派」（AfD）の合流が取り沙汰されており、**欧州議会に極右の第3勢力が誕生**する可能性が高まりつつある。中道派が過半数を占める欧州議会で議論をリードすることは困難と見られ、むしろ極右勢力が一段と分裂して影響が小さくなるという見方もあるものの、反グリーンディール、反ウクライナ支援継続、反移民受け入れという色彩の強い新会派結成となれば、オルバン首相の反EU主流派としての存在感は一段と強まる可能性がある。

ポーランド国立銀行（NBP）は7月3日に政策金利を5.75%で据え置いた。更新された見通しでは、2024年から2025年にかけてのCPIインフレ率が全体的に上方修正されている。根強い賃金上昇圧力とサービスインフレ高止まりのリスクを反映したものと見られる。翌4日にグラピンツキ総裁の記者会見を控えるが、タカ派姿勢を改めて示し、年内の利下げ再開の可能性を改めて否定する公算が大きい。

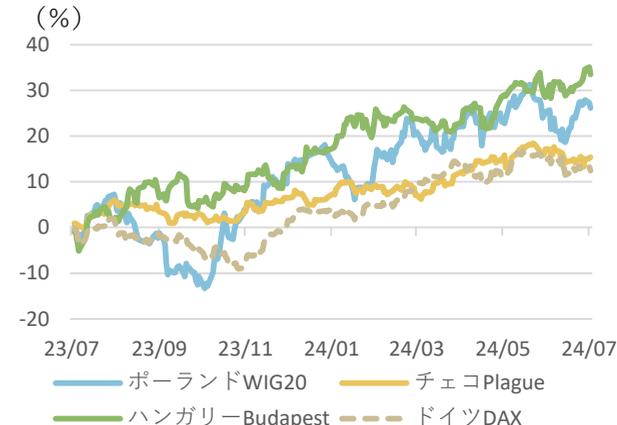
対ユーロ 年間騰落率（日足、ロンドン終値ベース）



10年国債利回り



株価指数 ユーロ換算後年間騰落率

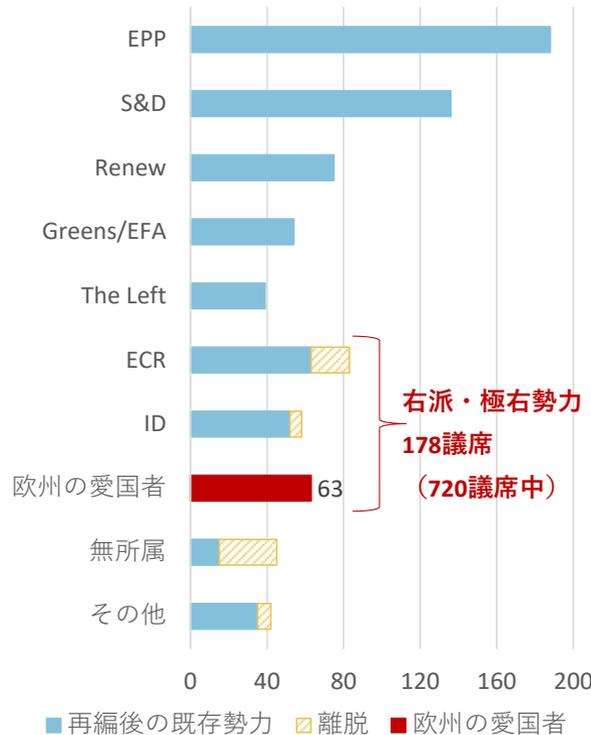


欧州議会に極右の第3勢力が誕生する可能性

「欧州の愛国者」初期メンバー（ハンガリー、チェコ、オーストリア）の欧州議会議席

「欧州の愛国者」にドイツ、ポーランド、スロバキアの極右政党が参加した場合

欧州議会会派



注：欧州の愛国者は会派の結成要件を満たしていないため参考値。（出所：欧州議会、みずほ）

注：欧州の愛国者の会派の結成にはあと1か国の政党の参加が必要。（出所：欧州議会、みずほ）

< 親EU勢力 >

欧州民主党（EPP）/中道右派

社会・民主主義進歩連盟（S&D）/中道左派

欧州刷新（Renew）/中道派

欧州緑の党・欧州自由同盟（Greens/EFA）/
環境政党・左派

< EU懐疑派 >

欧州統一左派・北欧緑左派連盟（The Left）/
左派

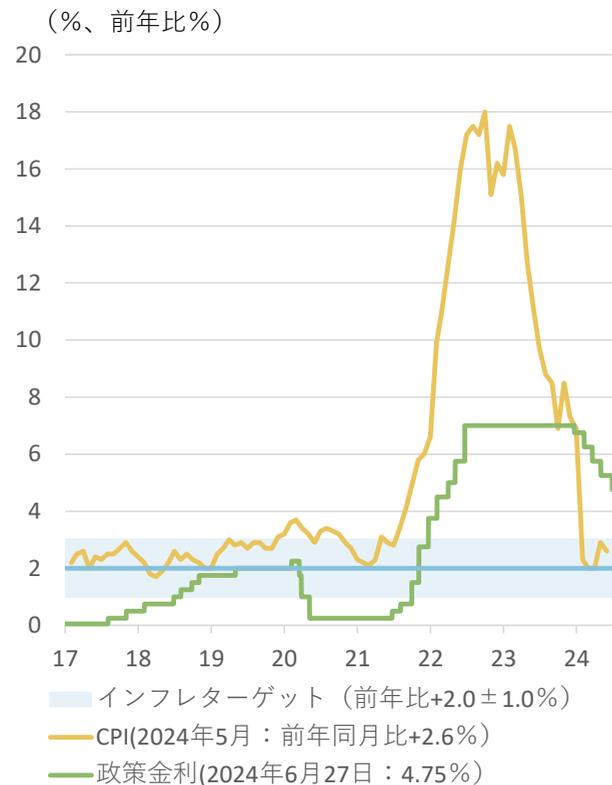
欧州保守改革（ECR）/右派

アイデンティティと民主主義（ID）/極右・右派

オルバン首相が率いるハンガリーの与党フィデスは、チェコの最大野党ANO、オーストリアの極右政党「自由党」（FPO）と同盟「欧州の愛国者」を結成すると6月30日に発表した。欧州議会の規則上、新会派の結成にはあと4か国で欧州議会で議席を持つ政党の参加が必要となるものの、3党に加えてスロバキア、ポーランド、ドイツの極右政党の合流が取り沙汰されている。仮に新会派が結成されたとしても、中道派が過半数を占める欧州議会で議論をリードすることは困難と見られ、むしろ極右勢力が一段と分裂することで影響が小さくなるという見方もある。しかし、反グリーンディール、反ウクライナ支援継続、反移民受け入れという色彩の強い新会派の結成によって、オルバン首相の反EU主流派としての存在感が一段と強まる可能性がある。

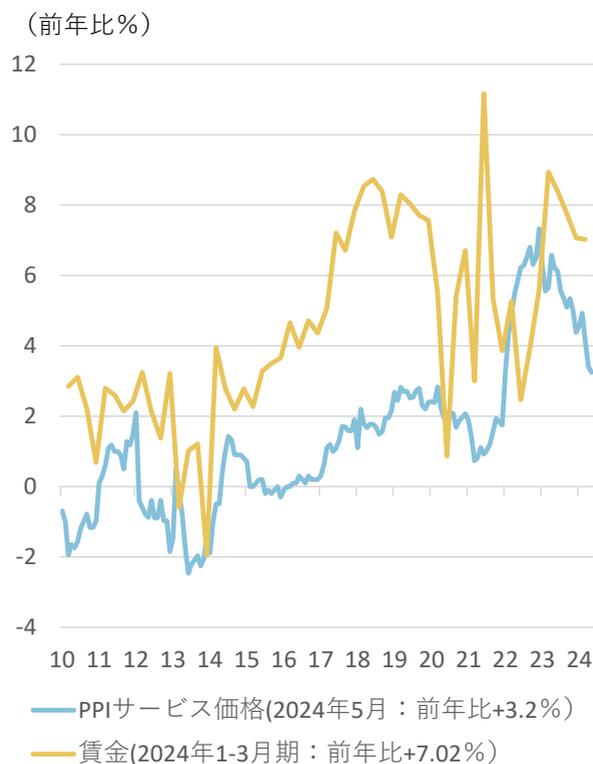
チェコ国立銀行は6月27日の金融政策決定会合で4会合連続となる50bpの利下げを決定

政策金利とCPI



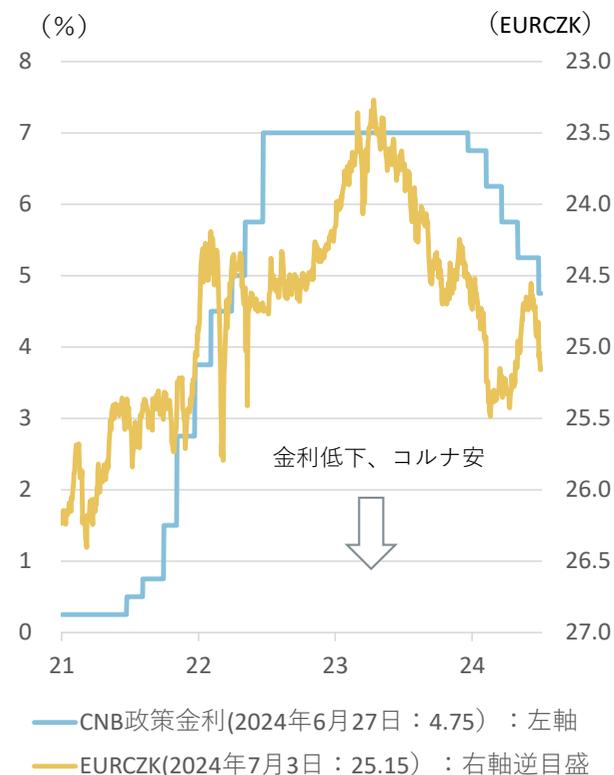
(出所：CSO、ブルームバーグ、みずほ)

賃金とサービス価格



(出所：CSO、マクロポンド、みずほ)

コロナの対ユーロレートと政策金利



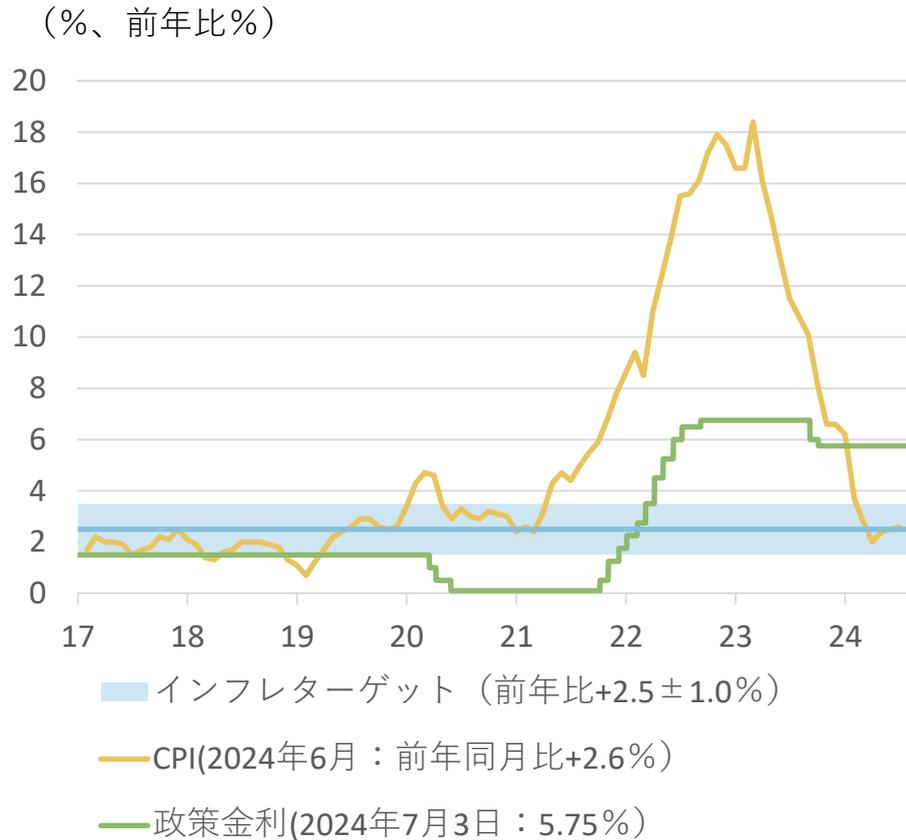
(出所：ブルームバーグ、みずほ)

6月下旬以降のコロナの軟調な展開や、インフレ・賃金の上方スパイラルのリスクを考慮すれば、25bpへの利下げ幅縮小が妥当という見方も根強かった。50bpの利下げ発表後にコロナは下げ足を速めている。

ポーランド国立銀行（NBP）は7月3日に政策金利を5.75%で据え置く

ポーランド 消費者物価指数（CPI）と政策金利

ポーランド国立銀行 成長率・インフレ率 予測値



(出所：ポーランド統計局、ブルームバーグ、みずほ)

		2024年3月予測	2024年7月予測
実質GDP	2024年	2.7-4.3%	2.3-3.7%
	2025年	3.2-5.3%	2.8-4.8%
	2026年	2.0-4.5%	1.9-4.3%
CPIインフレ率	2024年	2.8-4.3%	3.1-4.3%
	2025年	2.2-5.0%	3.9-6.6%
	2026年	1.5-4.3%	1.3-4.1%

(出所：ポーランド国立銀行、みずほ)

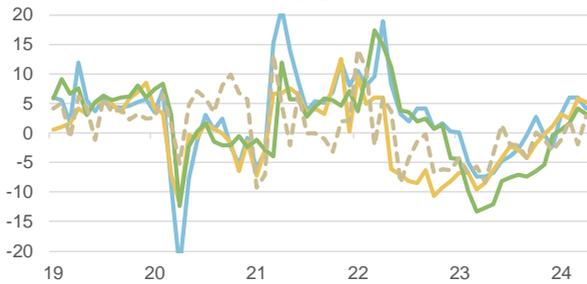
更新された見通しでは、2024年から2025年にかけてのCPIインフレ率が全体的に上方修正されている。根強い賃金上昇圧力とサービスインフレ高止まりのリスクを反映したものと見られる。

中東欧・ドイツ 主要経済指標

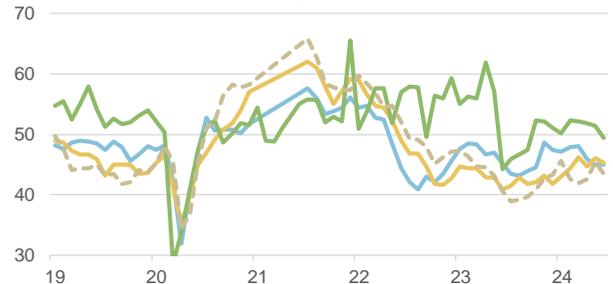
(2019年10-12月期=100) 実質GDP



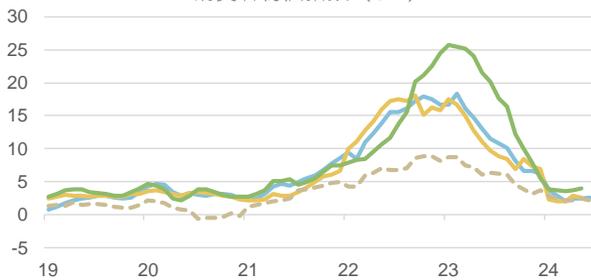
(前年同月比%) 小売売上高



(中位=50) 製造業PMI



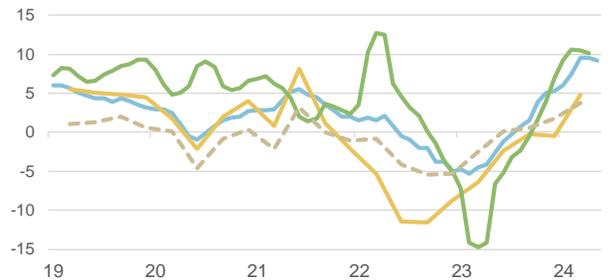
(前年同月比%) 消費者物価指数 (CPI)



(%) 失業率



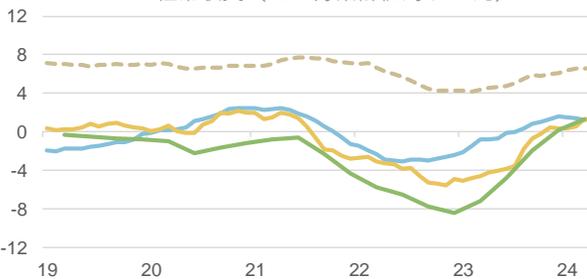
(前年比%) 実質賃金 (* 1)



(前年比%) 輸出 (* 2)



(%) 経常収支 (12か月累計値対GDP比)



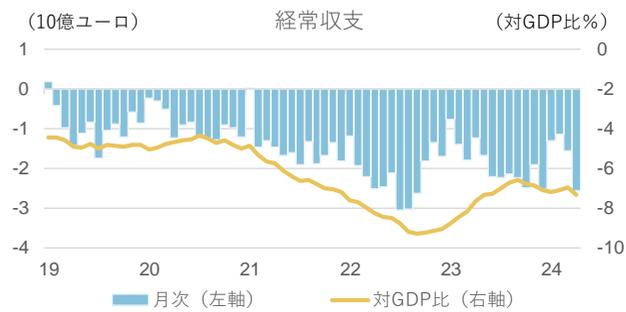
— ポーランド
— チェコ
— ハンガリー
- - - ドイツ

* 1 ポーランド、ハンガリーはCPIで実質化。3か月平均値をとったうえで前年比を計算している。チェコ、ドイツは四半期のデータ。

* 2 金額ベース。各国のデータをユーロ換算したうえで独自に季節調整を実施後、前年比を計算している。

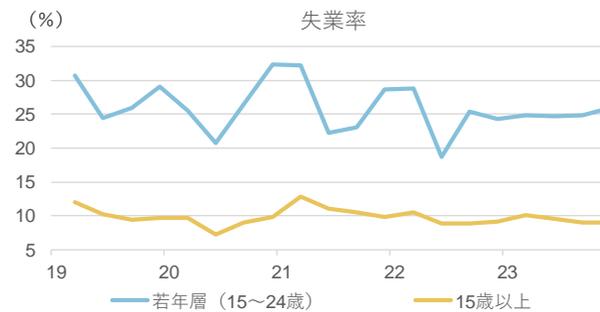
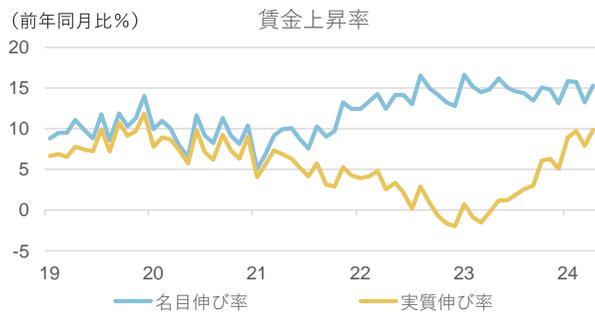
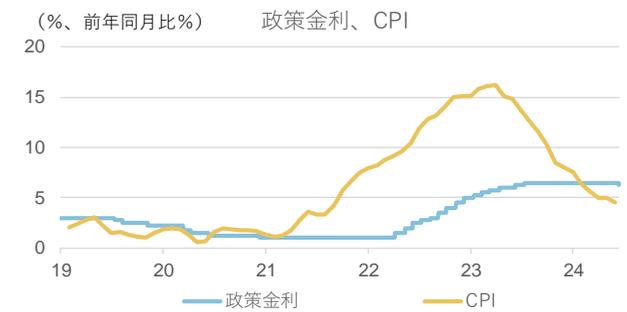
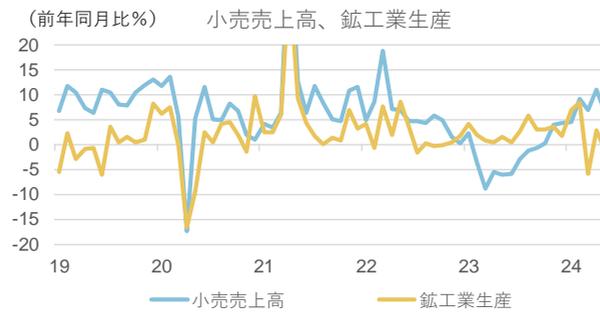
(出所：各国統計、ユーロスタット、ブルームバーグ、みずほ)

ルーマニア



(出所：ルーマニア統計局、ルーマニア国立銀行、ユーロスタット、ブルームバーグ、みずほ)

セルビア



(出所：セルビア統計局、セルビア国立銀行、ユーロスタット、ブルームバーグ、みずほ)

中東欧通貨 中期見通し 欧州政治リスクが重石に

中東欧通貨 対ユーロ見通し

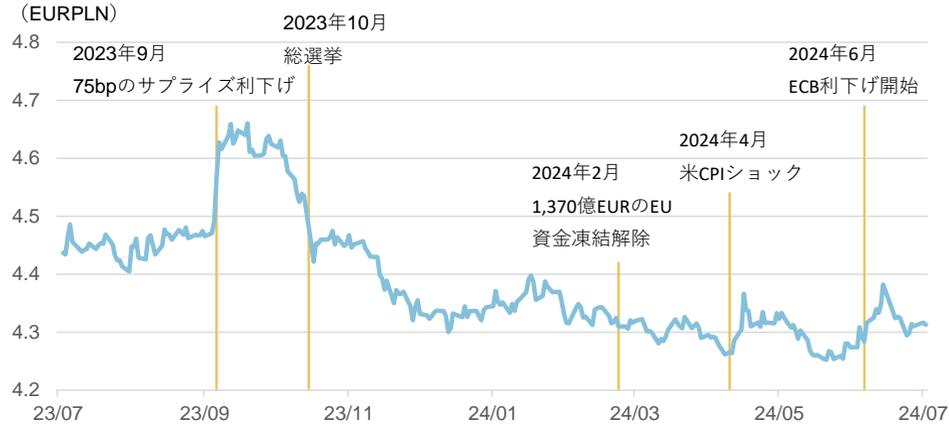
	Spot	2024		2025		
		Sep	Dec	Mar	Jun	Sep
EUR/PLN	4.31	4.30	4.28	4.26	4.24	4.22
EUR/CZK	25.04	25.2	25.3	25.4	25.5	25.6
EUR/HUF	395	398	400	402	404	406
EUR/RON	4.98	4.99	5.00	5.05	5.10	5.15

注：見通しは2024年6月末時点。

- 6月の中東欧通貨はポーランドズロチ、チェココルナ、ハンガリーフォリントが揃って下落。とりわけ6月6日から9日にかけて行われた欧州議会選挙の結果判明後に下落圧力が強まっている。欧州議会選挙は、概ね世論調査結果通りの内容となったものの、6月10日にはフランスのマクロン大統領が早期解散総選挙を発表するという「サプライズ」があった。EUの中核国の1つのフランスで極右の政権が誕生すれば、ウクライナ支援などEUの政策にも影響がでかねない。ポーランドをはじめロシアと対峙する中東欧の国々により多くの負担がかかるリスクがあるだろう。一方、各国の金融政策には乖離が再び乖離が広がっており、通貨ごとのパフォーマンスの違いにつながる公算が大きい。
- ポーランド国立銀行（NBP）は6月5日の会合で政策金利を5.75%で据え置いている。グラピンツキ総裁は改めて、年内の利下げ転換の可能性を否定している。欧州中央銀行（ECB）が利下げ局面に入ったと見られるなか、ポーランドとユーロ圏の金利差は拡大に向かう公算であり、ズロチのサポート要因となる公算が大きい。
- チェコ国立銀行は6月27日の金融政策決定会合で4会合連続となる50bpの利下げを決定した。6月下旬以降のコルナの軟調な展開や、インフレ・賃金の上方スパイラルのリスクを考慮すれば、25bpへの利下げ幅縮小が妥当という見方も根強かった。声明文はインフレ警戒姿勢を引き続き示しているが、景気の低迷を意識した利下げだった可能性が高い。
- ハンガリー国立銀行は6月18日に市場予想通り25bpの利下げを実施、5月（50bp）から利下げ幅を縮小した。
- なお、6月19日には欧州委員会がEU加盟各国の財政状況についてのレポートを発表し、過剰財政赤字是正手続き（EDP）の対象に、ポーランド、ハンガリーが指定されている。ルーマニアは以前からEDPの対象となっていたが引き続き対象となっている。当面の経済・財政への影響は限定的と見られるものの、EDPには欧州理事会による警告に従わず事態が改善されない場合、最大対GDP比0.05%の罰金が科される（効果的な措置が取られるまで6か月毎に累積される）などの制裁措置が設けられている。EUとの対立の火種となりかねない点に注意が必要となる。

中東欧各通貨 対ユーロ相場推移

ポーランドズロチ（対ユーロ相場、日足、ロンドン終値）



チェココルナ（対ユーロ相場、日足、ロンドン終値）



ハンガリーフォリント（対ユーロ相場、日足、ロンドン終値）



ルーマニアレイ、セルビアディナール 対ユーロ年間騰落率



Disclaimer

This presentation (the "Presentation") is given for general information purposes only and shall be kept strictly confidential by you, and shall only be used by you in connection with *[insert details of the Transaction]*. Until receipt of necessary internal approvals and until a definitive agreement is executed and delivered, there shall be no legal obligations of any kind whatsoever (other than those relating to confidentiality) owed by either party with respect to any of the material contained in the Presentation. All of the information contained in the Presentation is subject to further modification and any and all opinions, forecasts, projections or forward-looking statements contained herein shall not be relied upon as facts nor relied upon as any representation of future results which may materially vary from such opinions, forecasts, projections or forward-looking statements. In particular, no tax advice is given and you should ensure that you each seek your own tax advice.

You should obtain your own independent advice on the financial, legal, accounting, and tax aspects of any proposed solution outlined in this Presentation. You agree that you are not relying and will not rely on any communication (written or oral) of Mizuho Bank, Ltd., Mizuho International plc, Mizuho Bank (USA), or Mizuho Securities USA Inc. or any company whose ultimate holding company is Mizuho Financial Group, Inc. (each a "Mizuho Group Company") as investment advice or as a recommendation to enter into any transaction, and that you are capable of assessing the merits of and understanding (on your own behalf or through independent professional advice), and should you enter into a definitive agreement with a Mizuho Group Company, you will do so because you understand and accept the terms and conditions and risks (including but not limited to economic, competitive, operation, financial, legal, accounting and tax risks) of such transaction. No Mizuho Group Company in any way warrants, represents, or guarantees the financial, accounting, legal or tax results of the transaction described in the Presentation nor does it hold itself out as a legal, tax or accounting advisor to any party.

With respect to derivative transactions, documents presented to you and our discussions with you present one or a few of the possible ways of using derivative products. You should only enter into a derivative transaction and the underlying documentation/contracts (collectively "derivative transaction") after you have obtained a sufficient understanding of the details and consequences (including potential gain and loss consequences) of entering into a derivative transaction. The actual conditions and terms of the derivative transaction that you enter into with a counterparty will be determined by prevailing market conditions at the time that you enter into the derivative transaction with that counterparty. Consequently, you should carefully review the specific terms and conditions of your derivative transaction at that time. You agree that the final decision to enter into a derivative transaction is solely yours and such decision was made solely at your discretion after you had independently evaluated all the risks and benefits associated with the derivative transaction. For derivative transactions where you may have a right or option to make a choice, your ability to exercise your right or option is for a limited time period only. If you choose to terminate or cancel a derivative transaction early, you may be required to pay a derivatives transaction termination payment to the counterparty. In the event that the creditworthiness of your counterparty under the derivative transaction deteriorates, a possibility exists that you may not attain the financial effect that you may have originally intended to achieve at the time that you entered into the derivative transaction, and that you may incur an expense/loss.

When entering into a contingent convertible transaction, you should be aware of and have a sufficient understanding of the Product Intervention (Contingent Convertible Instruments and Mutual Society Shares) Instrument 2015, published in June 2015 by the FCA, which took effect from 1 October 2015 in relation to contingent convertible instruments (the "PI Instrument").

Nothing contained herein is in any way intended by any Mizuho Group Company to offer, solicit and/or market any security, securities-related product or other financial instrument which such Mizuho Group Company is otherwise prohibited by United Kingdom, U.S., Japanese or any other applicable laws, regulations, or guidelines from offering, soliciting, or marketing.

Any tax aspects of this proposed financial solution are non-confidential, and you may disclose any such aspect(s) of the transaction described in the Presentation to any and all persons without limitation. In particular, in the case of the United States, to ensure compliance with Internal Revenue Service Circular 230, prospective investors are hereby notified that: (A) any discussion of U.S. Federal tax issues contained or referred to in the Information book or any document referred to herein is not intended or written to be used, and cannot be used, by prospective investors to avoid penalties that may be imposed on them under the United States Internal Revenue code of 1986, as amended (the "Code"); (B) such discussions are written for use in connection with the promotion or marketing of the transactions or matter addressed herein; and (C) prospective investors should seek advice on their particular circumstances from an independent tax advisor.

A Mizuho Group Company may have acted as underwriter, agent, placement agent, initial purchaser or dealer, lender on instruments discussed in the Presentation, may have provided related derivative instruments, or other related commercial or investment banking services. A Mizuho Group Company or its employees may have short or long positions or act as principal or agent in any securities mentioned herein, or enter into derivative transactions relating thereto or perform financial or advisory services for the issuers of those securities or financial instruments.

The reference throughout this Presentation to "Mizuho" is a generic reference to one or more Mizuho Group Companies. Accordingly, the legal entity which may enter into any transaction or provide any service described in the Presentation may, at the option of one or more Mizuho Group companies and subject to any legal/regulatory requirement, be any one or more Mizuho Group Companies, such as Mizuho Bank, Ltd., Mizuho International plc, Mizuho Bank (USA) acting as agent for Mizuho Bank, Ltd., or Mizuho Securities USA Inc. (which is a registered US broker-dealer and the entity through which Mizuho generally conducts its investment banking, capital markets, and securities business in the United States), provided that such Mizuho Group Company is permitted and, if required, appropriately licensed and/or registered to engage in such activities in accordance with applicable laws, rules and regulations.

As previously notified and explained, and unless and until you notify the relevant Mizuho Group Company to the contrary, any non-public information provided by you to any Mizuho Group Company will be maintained in accordance with its internal policies and will be shared with other Mizuho Group Companies to the extent deemed necessary by such Mizuho Group Company to consummate the transaction or provide the product or service described in the Presentation. The interpretation of the Presentation shall, to the extent appropriate, be governed by English law and subject to the jurisdiction of the English courts.

The email addresses of Mizuho staff indicate by which entity they are employed: (i) [name]@mhcb.co.uk indicates Mizuho Bank, Ltd.; (ii) [name]@us.mizuho-sc.com indicates Mizuho Securities USA; and (iii) [name]@uk.mizuho-sc.com indicates Mizuho International plc; and (iv) [name]@mizuhocbus.com indicates Mizuho Bank (USA). Mizuho Bank, Ltd., is authorised and regulated by the Financial Services Agency of Japan. Mizuho Bank, Ltd., London Branch, is authorised by the Prudential Regulation Authority and is subject to regulation by the Financial Conduct Authority and limited regulation by the Prudential Regulation Authority. Details about the extent of our regulation by the Prudential Regulation Authority are available upon request. [Any eligible deposits with Mizuho Bank, Ltd., London Branch are protected up to a total of £85,000 by the Financial Services Compensation Scheme, the UK's deposit protection scheme. This limit is applied to the total of any eligible deposit accounts with Mizuho Bank, Ltd., London Branch. Any total deposits with Mizuho Bank, Ltd., London Branch above the £85,000 limit are not covered. For further information about your rights under the FSCS please visit <http://www.fscs.org.uk>.](#)

Mizuho International plc is authorised by the Prudential Regulation Authority and regulated by the Financial Conduct Authority and the Prudential Regulation Authority.